

(大阪西北部・大阪東北部)

大阪・広島藩大坂蔵屋敷跡
ひろしまはんおおさかくらやしき

- 1 所在地 大阪市北区中之島四丁目
- 2 調査期間 一九九六年(平8)五月〜一〇月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 伊藤 純
- 5 遺跡の種類 蔵屋敷
- 6 遺跡の年代 江戸時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

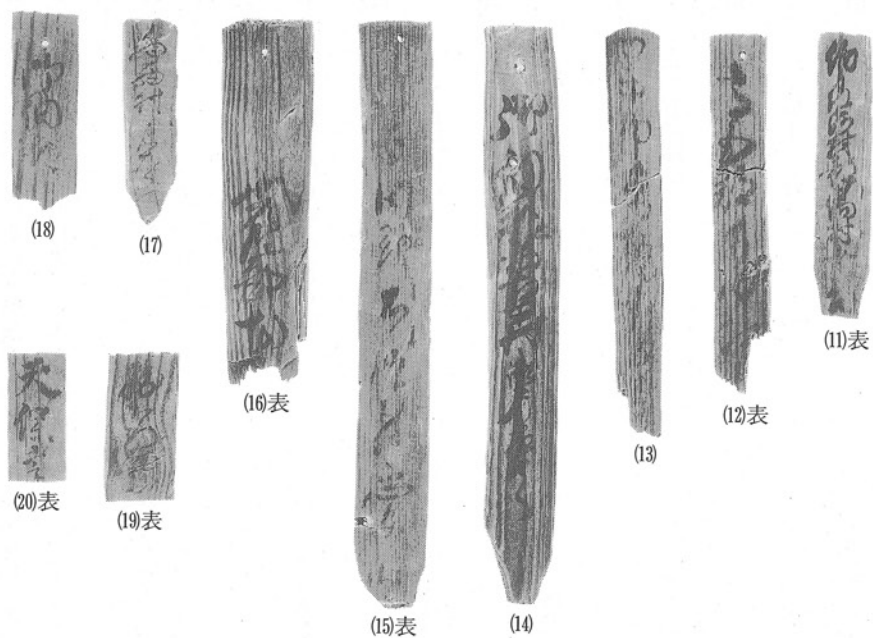
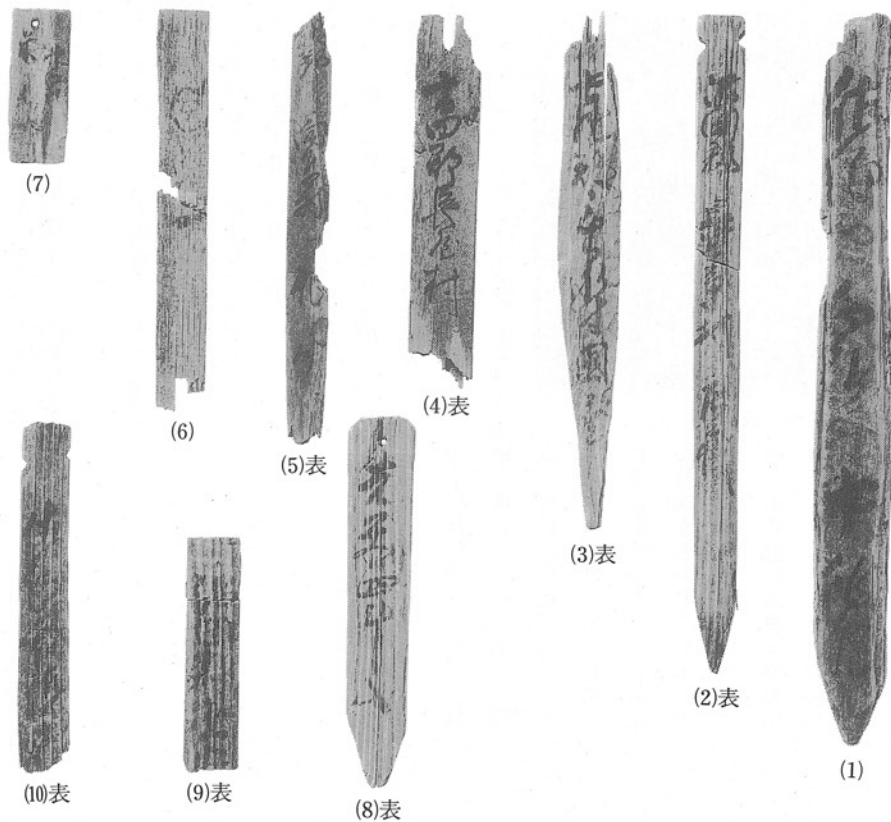
調査地は堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島に位置している。江戸時代以降、周辺には諸国の大名が蔵屋敷を構え、日本における物流・経済の中心になっていた。調査地点には広島藩の大坂蔵屋敷が置かれ、詳細な絵図が知られている。それによれば、蔵への荷揚げのため北側に流れる堂島川から屋敷内に水を引入れた「船入」が描かれている。当地が大阪市立近代美術

館(仮称)の建設予定地になったため、地下に残る蔵屋敷跡の船入の遺存状態を把握するために発掘調査を行なった。木簡は、明治初年まで機能していた船入に流れ込んだヘドロ層から、三〇〇点近くが出土した。

現在整理中なので、完形に近く、保存処理が済んでいるもののみ紹介する。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「佐伯郡白砂村中作蔵」
355×36×9 051
- (2) 「沼田郡長楽寺村庄蔵」
「<酉」
320×23×8 033
- (3) 「セ羅郡重永村国蔵」
「辰十月廿三日」
(250)×30×5 059
- (4) 「高田郡長屋村」
「□月□□」
(180)×31×5.5 019
- (5) 「調郡向東村」作助
「辰十一月」
(210)×(20)×3 081
- (6) 「(人物画)」
(195)×25×1.5 019



- (7) 「。廿四升
米和介」
75×(28)×6 021
- (8) 「。玄米四斗入」
「。廣□□□五□長□□」
178×31×7 051
- (9) 「沼田郡上安×」
「丑十月廿八日」
(113)×26×5 019
- (10) 「。佐伯郡佐方□^{〔村カ〕}×」
「。亥十一月十一×」
(168)×24×6 039
- (11) 「。伯州河村郡湯村幸□」
「。一橋津御□□」
136×26.5×6 051
- (12) 「。高宮郡可部村□×」
「。申十月五×」
(169)×26×9 019
- (13) 「アキ郡東□村□□×」
(196)×26.5×5 019
- (14) 「。御調郡木梨村瀬□殿□郎」
276×36×4.5 051
- (15) 「。高田郡土師村嘉助」
「。□□□□」
281×34×7 051

9 関係文献

（財）大阪市文化財協会『広島藩大坂蔵屋敷跡—大阪市中区中之島四丁目における発掘調査—』（一九九七年）

（伊藤 純・鳥居信子・豆谷浩之）

- (16) 「。世羅郡本×」
「。□□×」
(172)×43×7 019
- (17) 「向西村□右衛門」
100×26×6 051
- (18) 「。御調郡×」
(96)×31×4 019
- (19) 「勝右衛門新□」
「。廿一」
71×34×10 021
- (20) 「。天保五年」
「宮本□次郎 久」
木村久次 次
62.5×27.5×4 021